

令和4年度 第3回 総合教育会議

資料

学校教育相談の充実について

令和5年3月20日

教育相談室長 関崎 純也

1 富士見市の教育相談の現状

- (1) 不登校児童生徒数
- (2) 教育相談室相談受付件数

2 国・県・市の動向

- (1) 第3次富士見市教育振興基本計画
- (2) 埼玉県ヤングケアラー支援推進協議会
- (3) 生徒指導提要

3 今後の展望

- (1) 令和3年度第2回総合教育会議提案事項の進捗
- (2) 関係機関との連携

1 富士見市の教育相談の現状

(1) 不登校児童生徒数

※R4は、12月31日現在

全国（公立）

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
小学校	22,622	21,243	24,175	25,864	27,583	30,448	35,032	44,841	53,350	63,350	81,498	
中学校	94,836	91,446	95,442	97,033	98,408	103,235	108,999	119,687	127,922	132,777	163,442	
合計	117,458	112,689	119,617	122,897	125,991	133,683	144,031	164,528	181,272	196,127	244,940	

埼玉県（公立）

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
小学校	982	850	912	974	1,032	1,073	1,368	1,906	2,121	2,624	3,244	
中学校	4,604	4,526	4,414	4,318	4,420	4,617	5,138	5,678	6,154	6,310	7,934	
合計	5,586	5,376	5,326	5,292	5,452	5,690	6,506	7,584	8,275	8,934	11,178	

富士見市

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	※R4
小学校	28	30	32	28	22	34	19	35	33	55	61	72
中学校	79	75	72	92	74	80	88	70	84	84	86	125
合計	107	105	104	120	96	114	107	105	117	139	147	197

在籍児童生徒数に占める不登校児童生徒数の割合（％）

※R4は、12月31日現在

小学校（公立）

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	※R4
全 国	0.33	0.31	0.36	0.39	0.42	0.47	0.54	0.70	0.83	1.01	1.32	
埼玉県	0.25	0.22	0.24	0.26	0.28	0.29	0.37	0.52	0.58	0.72	0.90	
富士見市	0.48	0.52	0.55	0.49	0.39	0.60	0.33	0.62	0.58	0.96	1.07	1.25

中学校（公立）

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	※R4
全 国	2.64	2.56	2.69	2.76	2.83	3.01	3.25	3.65	3.94	4.30	5.26	
埼玉県	2.44	2.42	2.37	2.32	2.39	2.52	2.84	3.20	3.49	3.57	4.46	
富士見市	2.89	2.73	2.61	3.40	2.73	2.96	3.25	2.66	3.14	3.17	3.22	4.78

合計（小学校＋中学校）

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	※R4
全 国	1.12	1.09	1.17	1.21	1.26	1.35	1.47	1.69	1.88	2.07	2.60	
埼玉県	0.97	0.94	0.94	0.94	0.98	1.02	1.18	1.39	1.52	1.65	2.08	
富士見市	1.24	1.23	1.22	1.42	1.14	1.36	1.27	1.26	1.40	1.66	1.75	2.37

不登校児童生徒数の推移

- 平成25年度から、全国的には、不登校児童生徒数が増加傾向にある。
- 本市では、平成23年度から令和元年度の不登校児童生徒数は、96名から120名の間で推移してきた。
- 本市の令和2年度の不登校児童生徒数は、139名と、これまでに比べ増加した。
- 令和2年度から3年度にかけて、全国の不登校児童生徒数は、約25%増加したなか、本市の増加は、約6%で踏みとどまった。
- 令和4年度は、12月31日現在、令和3年度に比べ約35%増加している。

(2) 教育相談室相談受付件数 (H27~R4)

※R4は、12月31日現在

		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	※R4
不登校	小	25	21	67	43	100	226	234	144
	中	35	33	206	86	84	140	158	114
	合計	60	54	273	129	184	366	392	258
非行・問題行動	小	38	25	22	17	34	38	19	19
	中	8	6	3	7	12	20	4	14
	合計	46	31	25	24	46	58	23	33
交友関係	小	13	15	13	28	29	13	26	14
	中	7	3	4	6	11	4	3	9
	合計	20	18	17	34	40	17	29	23
いじめ	小	6	3	6	3	5	13	4	1
	中	3	2	4	2	6	2	7	1
	合計	9	5	10	5	11	15	11	2
虐待・養育 ・親子のトラブル	小	6	8	20	48	60	35	38	24
	中	3	4	26	11	12	12	25	21
	合計	9	12	46	59	72	47	63	45
学校・担任 とのトラブル	小	8	12	18	39	37	12	19	36
	中	10	4	11	12	9	9	6	9
	合計	18	16	29	51	46	21	25	45
発達障がい	小	39	54	77	105	123	165	88	23
	中	8	13	9	14	42	42	55	7
	合計	47	67	86	119	165	207	143	30
学習 (低学力・遅れ)	小	36	35	42	66	68	54	88	16
	中	9	14	6	13	32	31	26	9
	合計	45	49	48	79	100	85	114	25
合計	小	291	334	626	655	1,061	1,024	993	550
	中	111	128	408	221	331	398	486	285
	合計	402	462	1,034	876	1,392	1,422	1,479	835

教育相談室 相談受付件数の推移

- コロナ前の平成29年度頃から、不登校、虐待・養育・親子トラブル、発達障がい、学習（低学力・遅れ）については、増加傾向が見られていた。また、特に、小学生についての相談が増加した。
- 令和2年度の新型コロナウイルス感染症の流行以降、不登校については、さらに増加した。また、虐待・養育・親子トラブル、発達障がいについても、平成28年度以前と比べ、高い水準となっている。
- 交友関係、いじめなど、友人にかかわる相談は、一定の相談件数で推移している。
- 学校・担任とのトラブルに関する相談は、年度にもよるが、微増傾向。

学校特有の事柄に関わる相談

家庭への支援も必要

2 国・県・市の動向

第3次富士見市教育振興基本計画（令和5年度～令和9年度）

◇教育相談体制の充実

- (1) 児童生徒や保護者、教職員などの相談に対応するため、一般的な教育相談に加え、特別支援教育相談、言語相談・言語訓練、巡回教育相談、心理相談など**医療機関を含めた関係機関との連携**により、教育相談体制の充実に努めます。また、相談の窓口を広げるために、出張相談を実施します。
- (2) ふれあい相談員、スクールソーシャルワーカーを市独自で配置し、**学校や関係機関との連携**により、不登校児童生徒の生活環境を整え、社会的自立を支援します。
- (3) 教育相談室と**学校が連携**し、児童生徒の出席状況の把握や学校アンケートの活用により、不登校など支援が必要な児童生徒の早期把握・早期支援を行います。
- (4) **跡見学園女子大学と連携**し、専門的知見を活かして、情緒や発達に支援を必要とする児童生徒を対象に、検査の実施や小学校へのチュードントサポーターの派遣などを行います。
- (5) **学校**において、児童生徒が仲間を思いやり、支えあう活動を通して、相互の人間関係を豊かにする意欲と技能をはぐくみます。
- (6) 教育相談室と**学校との連携**により、教職員等の研修会や連絡協議会を開催し、教育相談への理解を深めるとともに、効果的な指導・対応能力の向上に努めます。
- (7) 教育支援センター「あすなろ」や出張あすなろにおいて、**保護者や在籍校と連携**し、不登校児童生徒の心身の安定を図りながら、個別学習や様々な体験活動、小集団活動、ICTを活用した支援により、社会生活への意欲を高め、自立を支援します。
- (8) 教育相談室と**子ども未来応援センターが連携**し、小学校就学前から切れ目のない相談・支援に取り組みます。

ヤングケアラーの支援に向けた福祉・介護・医療・教育の連携プロジェクトチーム とりまとめ (厚労省・文科省 令和3年5月17日)

福祉、介護、医療、教育等、関係機関が連携し、ヤングケアラーを早期に発見して適切な支援につなげるため、取組を推進

(埼玉県ヤングケアラー支援推進協議会 ※本市も参加)

「ヤングケアラーの支援＝家族全体の支援」という視点

- ・ ヤングケアラーの背景には家族が抱えた複雑な問題が存在している。
- ・ ケアの対象者は高齢者だけでなく、疾病を患う親や障がいを持ったきょうだいなど様々で、その他にも経済的な困窮など家族が抱える問題は一樣ではない。
- ・ ヤングケアラーが抱える問題を解消するためには、**ヤングケアラー本人だけでなく、その家族も含めて支援していく必要がある**という点を忘れてはならない。
- ・ 家族が抱える様々な問題に対し、**多機関・多職種が関り、連携していく必要がある**。

生徒指導提要（文科省 令和4年12月）※12年ぶりの改訂

まえがき（抜粋） （文部科学省初等中等教育局長 藤原 章夫）

～生徒指導上の課題が深刻になる中、何よりも子供たちの命を守ることが重要であり、全ての子供たちに対して、学校が安心して楽しく通える魅力ある環境となるよう学校関係者が一丸となって取り組まなければなりません。その際、事案に応じて、学校だけでなく、**家庭や専門性のある関係機関、地域などの協力**を得ながら、**社会全体で子供たちの成長・発達に向け包括的に支援していく**ことが必要です。

生物・心理・社会モデル （生徒指導提要 P 9 0 抜粋）

～心理分野・精神医療分野・福祉分野等で活用されているアセスメントの方法として、**生物・心理・社会モデル**（以下「BPS モデル」という。）によるアセスメントを挙げることができます。

BPS モデル（Bio-Psycho-Social Model）では、**児童生徒の課題を、生物学的要因、心理学的要因、社会的要因の3つの観点から検討**します。例えば、不登校の児童生徒の場合、「**生物学的要因（発達特性、病気等）**」、「**心理学的要因（認知、感情、信念、ストレス、パーソナリティ等）**」及び「**社会的要因（家庭や学校の環境や人間関係等）**」から、**実態を把握すると同時に、児童生徒自身のよさ、長所、可能性等の自助資源と、課題解決に役立つ人や機関・団体等の支援資源を探ります。**

学校教育相談の充実に向けて

学校における実践を広げ、児童生徒の成長を支援していくと同時に、関係機関や地域と連携し、
家庭への支援も強化していく

3 今後の展望

(1) 令和3年度第2回総合教育会議提案事項の進捗

提案1：教育相談コーディネーター役の教員の育成

提案2：教職員への研修体系の整備

提案3：効果測定を活用したPDCAサイクルの確立

令和3年度第2回総合教育会議提案時の今後のスケジュール

	R 4 「準備調整期間」	R 5 「実践開始」	R 6 「実践2年目」
提案1 教育相談コーディネーター役の教員の育成	(1) 学校教育相談・不登校対応委員会の役割の 提案と調整	実践開始	<div style="border: 2px solid green; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">数値目標</p> <p style="text-align: center;">不登校児童生徒数、在籍児童生徒数に占める割合がR2に比べ2割減少。</p> <p style="text-align: center;">※数値目標の根拠</p> <p style="text-align: center;">R2の中3不登校生徒数が、不登校児童生徒数のおよそ2割であるため</p> </div>
	(2) 教育支援プロジェクトチームの役割の 提案と調整	実践開始	
提案2 教職員への研修体系の整備	(1) 学校教育相談・不登校対応委員、教育支援PTを対象とした 研修の開始		
	①学校教育相談・不登校対応委員研修（年3回開催） ②教育支援プロジェクトチーム研修（年3回開催）		
提案3 効果測定を活用したPDCAサイクルの確立	(2) 教職員を対象とした希望研修の 提案と調整	研修開始	
	(1) アセスの活用	アセスの活用	
	①学校教育相談・不登校対応委員会、教育支援プロジェクトチームにおいて研修会の開催するとともに、すでに導入している学校の実施状況の 情報を共有	(環境が整った学校から順次活用を開始する)	
(2) 欠席状況の管理の 実施			
(3) 大学等研究機関との連携と第三者評価の 開始			

① 令和3年度 西中学校 学校研究

研究テーマ

「自分の個性を生かし、活躍できる学校を目指した、**不登校を未然に防ぐ学級づくり**について」

内容

学校適応感尺度「アセス」を全生徒に実施し、一人ひとりの**実態把握**を行ったうえで、教科指導を中心に、生活満足感、教師サポート、友人のサポート、向社会的スキル、非侵害的關係、学習適応感の6項目について、**指導の工夫や生徒への支援**を行った。

実践事例

【教師サポートを高める支援の例】

- 学習のやり方に対する先生の助言
- 先生からの全体に向けての励まし
- 先生からの一人ひとりに向けての励まし
- 困っている生徒への気づきと助言 など

【向社会的スキルを高める支援の例】

- 始業、終業時のあいさつ
- 友達への肯定的な声掛けの仕方
- 困っている友達への声掛けの仕方
- ルール、マナーの暗黙の共有 など

【友人サポートを高める支援の例】

- 友達への共感、感謝、労い、励まし
- 友達への肯定的なものの見方と伝え返し
- 困っている友達や孤立している友達への気づきや共感、励まし など

【学習適応感を高める支援の例】

- 活躍場面の創出（学習発展につながるつばやきの価値づけ、グループの役割 など）
- 学習成果の実感（学習内容が身についた、ノートをイメージ通りにまとめられた など）

① 令和3年度 西中学校 学校研究

結果 令和4年度 全国学力・学習状況調査 生徒質問紙より抜粋

	朝食を毎日食べていますか	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	自分にはよいところがある	先生は、よいところを認めてくれる	夢や目標をもっている	自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていますか	失敗を恐れないでちょうどせんとしていますか	進んで助けていますか	人がこまわっているときは、	困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人に相談できますか	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	学校に行くのは楽しいと思いますか	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	友だちと協力するのは楽しいと思いますか
西中	93.3	84	89.1	96.6	70.6	93.3	88.2	95.8	72.2	97.5	92.4	87.4	96.6	
市平均	92.5	78.2	77.8	89.9	64.4	86.1	69.8	91.7	62.9	94.4	81.8	76.9	92.6	
県平均	92.2	80.6	81.2	90.3	68.9	86.3	69.7	89.6	69.9	95	84.5	78.7	94	
全国平均	91.9	79.9	78.5	85.9	67.3	86.6	67.1	88.4	66.6	95	82.9	76.9	93.7	

① 令和3年度 西中学校 学校研究

結果

**生活満足感
= 学校 + 家庭地域**

令和2年度・3年度、アセス全校平均値

	R2前期	R2後期	R3前期	R3後期
生活満足感	55.4	54.7	57.0	56.7
教師サポート	61.6	62.4	63.5	65.6
友人サポート	59.3	60.1	61.2	62.2
向社会的スキル	58.3	58.8	60.2	60.3
非侵害的関係	65.6	65.2	63.4	66.2
学習的適応	53.9	53.2	53.6	54.1

- 教師の指導力が向上した。
- 学校の教育力が向上した。
- 非侵害的関係の構造が変化してきている。

**今後は、
個別支援と家庭支援**

② 教育支援プロジェクトチーム、学校教育相談・不登校対応委員会

R4 教育支援プロジェクトチーム、学校教育相談・不登校対応委員会の活動状況

研修組織	教育支援プロジェクトチーム ・ 県の生徒指導・教育相談上級または中級研修会修了者6名 ・ 市全体の教育相談推進者	学校教育相談・不登校対応委員会 ・ 市内各校の教育相談主任等18名 ・ 各学校の教育相談推進者
第1回	教育支援プロジェクトチームの活動内容の確認 ・ 教育相談活動の実践と実践事例集の原稿執筆	教育支援プロジェクトチーム 西中学校 横山 雄大先生による、実践報告 「不登校を未然に防ぐ学級づくりについて」
第2回	合同研修会 講演 「すべての児童生徒を対象とした成長支援」 講師 下関市立大学 教授 中林浩子 先生	
第3回	・ 教育相談実践の報告と実践事例集の編集	教育支援プロジェクトチーム 勝瀬小学校 小森 唯先生による、実践報告 「みんながこの学校でよかったと思えるために」 指導者 下関市立大学 教授 中林浩子 先生

② 教育支援プロジェクトチーム、学校教育相談・不登校対応委員会

R4 教育支援プロジェクトチームの活動

実践事例集の作成

教育相談活動実践事例集



令和5年3月

富士見市教育委員会委嘱

教育支援プロジェクトチーム

たからものファイル（パーソナル・ポートフォリオ）

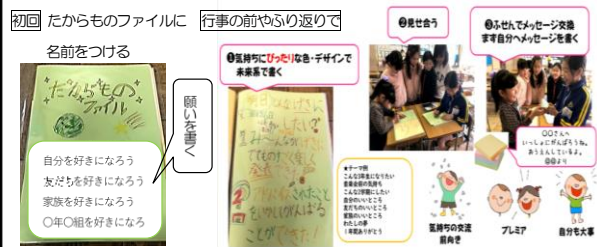
【ねらい】

◎自己理解、自己実現。友だちとの信頼関係づくり。

【活用する教育相談スキル】

◎自己理解 ◎自由連想 ◎気持ちの外在化 ◎ポジティブなものの方 ◎理想のシナリオ
◎肯定的なかかわり方 ◎勇気づけ ◎情緒的交流 ◎ピア・サポート など

（例）



～解説～

「たからものファイル」とは、福井県の元小学校教諭、岩堀美雪先生が提唱する取り組みです。クリアポケットファイルを一冊一冊用意し、自分の気に入っているものや、思い出のものをファイルしていきます。また、自分の思いを書き綴ったものや、友だちに書いてもらったメッセージもファイルしていきます。初回の活動で、たからものファイルに名前をつけ、願いを書きます。

【45分の活動例】

①一人で書く

A4サイズの色上質紙を何色か用意し、子供たちに自分の気持ちにあった色を1枚選んでもらいます。自分のイメージに合った色やデザインで、日付とテーマを書きます。色鉛筆の色は途中でかえても構いません。

②子供たち同士で見せ合う

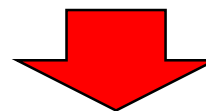
③付箋を使ってメッセージ交換

まず、自分から自分へのメッセージを書く。次にクラスの友だちへのメッセージを書く。

④もらったメッセージを貼りながら、読む。

「たからものファイル」を通して、前向きな気持ちになれたり、自分を応援してくれる友だちの存在に気づいたりできます。そして、自己肯定感の向上にもつながります。

実践力と指導力の向上を目指す



- ・ 自身の実践スキルを広げる
- ・ 誰かに伝えられるレベルにまで高める
- ・ R5も学校教育相談・不登校対応委員会で教育支援PTを指導者としたワークショップを開催予定

② 教育支援プロジェクトチーム、学校教育相談・不登校対応委員会

R4 学校教育相談・不登校対応委員会の活動

下関市立大学 教授 中林浩子 先生の指導

すべての児童生徒を対象とした
成長支援

2022年9月30日(金)

下関市立大学 中林 浩子

適応支援 と 発達支援 (包括的プログラムという考え方へ)

十分な発達支援を土台として適応支援を行う

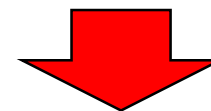


・適応支援をいくらやっても、子どもの発達が十分でなければ、効果は出にくい。

・発達支援と適応支援の統合プログラムが必要

・それがMLA

実践力と指導力の向上を目指す



- ・教育相談コーディネーターとして必要な、情報やスキルを得る

西中 横山先生・勝瀬小 小森先生 の発表

「自分の個性を生かし、
活躍できる学校を目指した、
不登校を未然に防ぐ学級づくりについて」
実践発表



富士見市立西中学校

みんながこの学校でよかったと思えるために



開発的教育相談～ピア・サポート～

- ・R5も、中林教授による指導や教育支援PTと連動した研修会を継続予定

③ その他の活動

勝瀬中学校区合同研修会

こどもが、学校生活でうまくいっているかどうかを調べ、適切な支援を行うための検査

アセス（学校適応感尺度）
を活かした児童理解

関崎純也

アセスの前に の まとめ

こどもが、学校生活でうまくやっていると感じるためのポイント

- ①教師とよい関係であること
- ②友だちとよい関係であること
- ③勉強のやり方、生活諸課題解決のやり方を知っていて、自分で使えること

意図的に・・・

肯定的であたたかい支持的・情緒的交流と
課題解決スキル（他者との付き合い方・勉強のやり方 他）の育成で
よりよい人間関係で結ばれた集団をつくるのが大切！

ふれあい相談員研修会



ふれあい相談員研修会@富士見市教育相談室

ちょっとした
カウンセリングの知恵

跡見学園女子大学
小栗貴弘



家族に求められること



規範の
提示

温かな
居場所

絆

(2) 関係機関との連携

イムス富士見総合病院

- ・医療機関との連携教育相談
- ・医療的見地からの助言など

子ども未来部

- ・合同家庭訪問
- ・ケース会議
- ・虐待への対応
- ・早期療育
- ・就学相談
- ・ファミリーサポート など



新規：跡見学園女子大学

- ・WISC検査
- ・チュード学生サポーター
- ・研修会講師 など

子供
保護者

健康福祉部

- ・アスポート
- ・ジュニア・アスポート
- ・社会保障による家庭支援など

地域・民間団体

- ・居場所・対話の機会提供
- ・学習支援
- ・子ども食堂 など

教育委員会
教育相談室

学校

保護者も苦しそうだけど、
家庭のことまでは・・・

(2) 関係機関との連携

事例1 中学生・幼児 不登校兄弟姉妹 支援 ※一部架空

学校 : 登校支援、学習支援、生徒指導、家庭訪問、保護者面談

子ども未来応援センター

: 保護者相談、家庭訪問、早期療育

保育所 : 保育、就学相談

イムス富士見総合病院 : 子供たちの健康や特性をチェック

教育相談室 : 家庭訪問、保護者相談、授業観察、教員支援、
保育所行動観察、就学相談

(2) 関係機関との連携

事例2 小学生 兄弟姉妹 不登校支援 ※一部架空

学校 : 登校支援、学習支援、生徒指導、家庭訪問、保護者面談

子ども未来応援センター

: 保護者相談、家庭訪問、ファミリーサポートの調整、
ジュニア・アスポートの案内

福祉政策課 : ジュニア・アスポートの調整

ジュニア・アスポート : 学校外での居場所づくり

イムス富士見総合病院 : 子供たちの健康や特性をチェック

教育相談室 : 家庭訪問、授業観察、教員支援、ケース会議の調整

今後、スチューデント
サポーターによる支援
を検討

(2) 関係機関との連携

連携を調整する際の手順と留意事項

1 情報収集と共有

- ・ 関係機関が把握した情報を幅広く収集し、共有する。

2 方策の見通し（中・長期的見通し）

- ・ 共有した情報の中から、うまくいっている原因に着目していく。

3 役割の決定（短期的な支援活動）

- ・ 情報共有でつかんだ状況や、出し合った支援の方策をもとに、それぞれの立場で、行う支援を自己決定。

4 経過の確認と修正（2週間から1ヶ月後に確認）

- ・ うまくいったことは継続。
- ・ 思わしくなかったことは、修正。

(2) 関係機関との連携

イムス富士見総合病院

- ・医療機関との連携教育相談
- ・医療的見地からの助言など

子ども未来部

- ・合同家庭訪問
- ・ケース会議
- ・虐待への対応
- ・早期療育
- ・就学相談
- ・ファミリーサポート など



跡見学園女子大学

- ・WISC検査
- ・チューデントサポーター
- ・研修会講師 など

子供 保護者

健康福祉部

- ・アスポート
- ・ジュニア・アスポート
- ・社会保障による家庭支援など

地域・民間団体

- ・居場所・対話の機会提供
- ・学習支援
- ・子ども食堂 など

①児童生徒の成長を支援

学校

教育委員会
教育相談室

学校教育相談
の充実

調整・
連携

②生物・心理・社会モデル に基づく連携による支援



提案：成長支援と連携支援

- ① 学校教育相談の充実により、児童生徒の成長を支援
- ② 生物・心理・社会モデルに基づく連携により、児童生徒と家庭を支援